

# 2023 北海道ブロック女性会議

2023年1月28日、連合北海道ブロック女性会議がWEBで開かれ、9産別6地区32人が参加しました。

はじめに、金子ヨリ連合北海道女性委員会委員長から「男女平等からジェンダー平等になり、敷居が高い、何をしたらよいかわからないという声を聞く。女性部の意見が基本組織の会議の議題に上がらず、重要な項目にもならないのが現状で、未だ家事・育児・介護は女性に負担がかかっている。男女平等、ジェンダー平等の意識を持ち、本部と連携し推進していきたい」と挨拶がありました。

次に、連合本部総合政策推進局 井上久美枝総合局長から「2023年度活動方針」、「2023春闘生活闘争（ジェンダー平等・多様性推進課題に関する取り組み）」の提起がありました。「男女間賃金格差はありません」と平気でいう事業主がいるが、女性は子育て中に男性と昇進・昇格の差ができ賃金格差が生まれるため、賃金プロット図のようなデータで把握することが重要であること、「世帯主」要件は実質的な間接差別にあたること、「女性の労働者が増えた」というが、現状として出産・育児を理由に離職し正社員で戻れないため、「非正規雇用」が増えているだけであること、ハラスメント対策については、ハラスメント防止への「雇用管理上講すべき措置」が義務化されているが、育児関係の法律については罰金がないため、企業側の意識が低いこと、改正育児・介護休業法など、法律はどんどん改正されているが、それが活用できる職場でなくてはならないこと、労働組合は法律を上回る協約ができる唯一の団体であり、国を上回る実績をもとに国会などで提起ができる、これからも団結してがんばりましょう、と話されました。

ジェンダー平等・多様性推進局 金沢紀和子次長からは、「連合『ジェンダー行動推進計画』フェーズ1」の説明があり、5つの達成目標と4つの推進目標について確認をしました。女性役員を選出している構成組織は7割ほどにとどまり、構成組織や地方連合会での女性の参画

率は4割弱。男女間格差の国際比較では、主要7か国中、日本は最下位です。「クリティカル・マス（決定的多数）」の30%をひとつの目標として女性参画をすすめていくことが重要であるということ共有しました。

産別報告では、JP労組の小玉朋廣さんから、男性の育児休暇取得の促進や、女性の管理者・役職者が少なく、勤続年数も短いことから、誰もがはたらきやすい環境整備を進めていきたいと報告がありました。函館地区連合女性委員会の埜澤彩香さんからは、コロナ禍であるが、工夫しながら学習会を行ったり、青年委員会等と連携してイベントを企画したりしていること、女性委員会としてパートナーシップ制度に意見反映するなどしており、今後も豊かな社会にしていけるために活動をしていきたい、と報告がありました。

続いて、田中女性員会事務局長から女性委員会活動報告がありました。スローガンのもと、はたらく女性の悩みを共有し、はたらきやすい職場・社会をつくるため、様々な集会や学習会を行っていることや、今後の課題についての話がありました。連合北海道和田副事務局長からは連合北海道

男女平等参画推進委員会報告があり、スローガンも決定し、24の産別13の地協からトップリーダー宣言をもらった。今後、女性の役員が出せるようにしていかなければならない、との話がありました。

最後に、連合本部井上総合局長からまとめとして、「男女の差別がある」のは前提であり、「ジェンダー平等」とはその上で多様性を認めるということ。「ジェンダー」という言葉が一歩歩きしていて、実態が伴っていないことがある。地域課題はそれぞれあるが、どのように女性参画を進めるかは共通の課題。連合本部も各地域と連携して取り組んでいく。労働三権を持っている私たち組合が足下を固めていきましょう、と話され閉会しました。

金子ヨリ委員長



井上久美枝局長



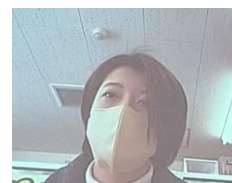
金沢紀和子次長



JP 小玉朋廣さん



函館・埜澤彩香さん



田中紀恵事務局長

